

# サポクラ 通信

令和6年(2024年)2月号

今月の内容は...

- ・コールダックの卵の行方 .....1
- ・ケンカはやめて！ .....4
- ・ダチョウ NEWS .....6



サポートクラブの皆様、いつも円山動物園をご支援いただきありがとうございます。



そして、はじめまして。今年度からコールダック、シナガチョウ、プレーリードッグ担当になりました岩井(いわい)です。

今回は、サポクラ初執筆ということで何を書こうか迷いましたが、丁度、コールダックの産卵が始まったので、今回は主に「コールダックの卵の行方」というテーマでお話したいと思います。

## ○コールダックの卵の行方○

### 2/7に今シーズン初採卵！

当園では、コールダックは断念種となっており、繁殖する予定はありません。そのため、去年まで産まれた卵はすべて処分していました。

今年の産卵期に入り、生まれた卵を大切に活用するため、アライグマやエゾタヌキ、リスザルなど、他の動物の餌にならないかということで、与えてみよう！ということになりました。

コールダックの卵の形は、普段、私たちが食べている鶏卵とほとんど変わりません。ただ、産卵シーズンの最初は長径が長くなるようです。こんな形(右写真)。長径は、約6cmで、スーパーに売っているSサイズの卵くらいですね。小さめです。



### 割ってみる

割ってみると、日常食べている鶏卵よりも黄身の色が薄いです(※ちなみに、食用として売られている鶏卵はにんじんやパプリカなどの色素を餌として与えているため、黄身の色が濃くなるそうです)。

写真右上は、卵を溶いてみたものです。だいぶ色が薄いですね。

一方、白身ですが、写真左上のように全体的にねっとり、デロンとして白身が全然切れません…。卵ってこんな感じだったっけ？という印象です。

皆さん、卵の白身には「濃厚卵白」と「水様卵白」という二つの種類があるのをご存じでしょうか。

簡単に説明すると、濃厚卵白は黄身の周りのドロツとした粘り気のある卵白、水様卵白は粘り気のない卵白です。

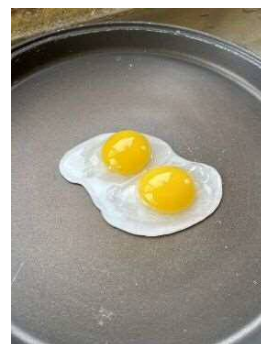
よくよく調べてみると、新鮮な卵であればあるほど濃厚卵白の粘度が高くなる傾向にあるそうです。今回使ったコールダックの卵は調理前日に産んだものだったので、やけに白身がドロツとしていたのも納得いきますね！



### 焼いてみる

さて、新鮮なとれたて卵とはいえ、感染症等の問題から生では与えられません。しっかり加熱します。

写真は目玉焼きにしてみた時のものです。遠目で見ればいつもの目玉焼きです。



## 食感

動物に与える前に味見しました。黄身と白身の食感の違いがあまりないくらい白身がボソボソ。そして全体的に味が薄い。というかあんまり味がしない。全体の感想としては食べれるけど美味しくはない。他の職員によるとダチョウの卵よりは美味しいみたいです(笑)。

## 与えてみた

スクランブルエッグにしたコールダックの卵をリスザルに与えてみました。さて、リスザルの様子は…。



リスザルたちはすぐに集まってきて次々と卵を取っていきました。両手いっぱい持って行った個体もいました(笑)。

今回は、卵の数と時間の関係でリスザルにしか与えてみることはできませんでしたが、今後は、アライグマやエゾタヌキなど他の動物にも与えてみる予定です。食べてくれるかなと勝手にワクワクしています。

## ○担当動物の紹介○

さて、卵の話はここまでにして、他の担当動物の現在についても少し紹介します

### シナガチョウ・ジェット

コールダックと一緒に暮らしていたシナガチョウのジェットですが、昨年11月から寒さと高齢(今年で12歳。シナガチョウの寿命は15~20年くらいと言われています)のため、暖かい鶏舎で過ごしています。

現在は、鶏舎へ移動前に状態が悪かった羽もきれいな状態に戻り、キャベツを盛大に床にまき散らしながらもよく餌を食べ、よく鳴いています。外の音をよく聞いていて、作業に入る際はいつも入り口で待ち伏せしています。こども動物園に足を運んで頂けるとジェットの大きな鳴き声が鶏舎から聞こえてくるかもしれません。最近のジェットの様子はこんな感じです。プールにも入っています。



週に1回の体重測定と、ボディチェックは欠かさず行い、暖かい環境で快適に過ごせるように日々努力しています。

雪が解けて暖かくなったら展示場に戻る予定なので、今しばらくお待ちください！

### プレーリードッグ

昨年10月に愛媛県立とべ動物園に転出した雄の「そら」ですが、広々とした展示場で元気になっているみたいです。写真はとべ動物園での「そら」の様子です。

「そら」がいなくなって三頭になったオス展示場ですが、寂しげな様子もなく(?)せっせと穴を掘りまくっています。見ただけではどこに穴があるのかわからないですが、中に入って歩くのも危ないくらいです。

メスもまた働き者ばかりなのでよく乾草を運んだりしている姿が見られます。そしてメスたちはよくいろんなものを、ひたすら齧ります。秋ごろに投入した丸太もすぐに皮がはがされてポロポロになり、小さな動物のパワーに驚かされました。

冬期間は、鳥インフルエンザの影響でカンガルー館が閉鎖となり、皆様にプレーリードッグをご覧いただけない日が多いですが、個体紹介を更新したので、開館した際は、ぜひ、足を運んでいただけると嬉しいです。



# ケンカはやめて！

サポートクラブみなさまいつも応援ありがとうございます。  
チンパンジー・オオカミを担当しています。祐川です。

今回はチンパンジーの「ケンカ」について書かせていただきます。

円山動物園では現在オス1頭メス8頭の9頭のチンパンジーが暮らしていますが、時々どうしてもケンカをしてしまいます。

ケンカを収める方法は大きく3つ。

- 「アルファ オス」リーダー的なものが間に入ってとめる。
- 助けてもらえそうな仲間を呼び大騒ぎする。
- 他の誰かのせいにする。（見に来た飼育員やお客様が悪者になることも）

ほとんどはリーダー的なものが、悪いほうを（時には力づくで）注意します。

円山動物園には現在アルファと呼ばれる立派なオスがおらず、オスはアルファ修行中の「アッキー」です。

本来は立派なアルファ オスの背中を見て成長していくのですが、「アッキー」は幼いときに父のアルファ オスが死亡してしまい、アルファ オスの居ない複雑な群れ環境で育ちました。

ケンカの原因は食べ物、寝る場所、寝具（木の枝葉）の奪い合いが多いです。

「アッキー」はケンカが始まるとすぐに止めに入り、だいたいの7～8割程度はケンカを上手に仲裁できるようになりました。

チンパンジーは感情の表現がストレートで分かりやすいですし、人に近い動物なので表情や体の動きからも感情を読み取れますが、仲裁に入るものは瞬時にどちらが悪いか見極め、悪いものに力を見せつけひと暴れする必要があります。

ケンカが収まると、ケンカをしていたどちらも「仲良くします」宣言の挨拶を、アルファを装う「アッキー」にしにいきます。

たまには仲裁の見極め判断を間違えると「アッキー」が悪ものになったりもします。

どうすれば、ケンカをしなくなるか、どうすればケンカを早く収められるか「アッキー」は常に考えては少しずつですが成長しているようです。

私たち飼育員もケンカの原因を少なくしようと取り組んでいます。

例えば、餌の回数や種類を増やしたり、食べ物を細かくしてあちらこちらに隠したりばらまいたり、寝具を沢山与えたりしています。



アッキー



道具を使って細かい餌を食べます



寝具を沢山

ケンカの原因を減らすのが飼育員の仕事、ケンカの仲裁はアッキーの仕事です。  
チンパンジーは離乳し母親が次の仔を出産する 5 歳ごろから、色々な我慢を覚えて大人に成長していきます。  
複雑な群れ社会で生きていくために、自分の立ち位置や役割を学び成長していくのです。  
私たち人間に一番近い動物だけに、チンパンジー達から考えさせられ、教えられることがよくあります。

# ダチョウ NEWS



皆様こんにちは。ダチョウ担当の井本です。  
今回はダチョウに関する話題を3つご用意しました。

## ①オスダチョウやってきました

昨年11月8日に旭山動物園からオスのダチョウがやってきました。円山動物園にオスのダチョウがくるのはなんと12年ぶり!!体が小さく運びやすい幼鳥のうちに移動させることが多いダチョウですが今回来たのは1歳5か月、体重89kgのほぼ成鳥と変わらないサイズです。体が大きいということは輸送する檻も大きく頑丈になり総重量は約330kgにもなりました。同じ日にやってきたライオンは80kgとほぼ互角。いやむしろ勝ち!さすが世界最大の鳥です。

数々の武勇伝?を他園から聞くオスダチョウ。

その中には「蹴りで鉄のフェンスを曲げた」だの「蹴りで飼育員を病院送りにした」だの恐ろしい話もたくさんあります。

輸送檻の中から猛々しいオスが登場するかと思いきや…



現れたのはまだ幼さが残るオスでした。薄いピンクの嘴と肢、黒と白の羽、ちょっと尾羽の白い部分が薄汚れているのも幼さのせいかなんだかチャーミングに見えました。

さっそく隣の部屋にいる先住メスのジュア（13歳）から洗礼の威嚇をうけます。  
慣れない環境にとまどいつつオスもなんとかやりかえしていました。



1歳5か月はダチョウ界でいうとまだまだ若造です。なんとダチョウの寿命は約50年！  
飼育下ではやや短めで30年程度ですがそれでも多くの哺乳類より長めです。  
今後立派なオスダチョウに成長していくのが楽しみです。

## ②どうなる?!ハラハラ同居

オスダチョウが来園してから3か月が経ちました。初めのころはそわそわビクビクしていたオスですがすっかり慣れ—安心…とりたいところなのですが2つ問題がでてきてしまいました。

1つ目は【オスの尿の量が多く床が常に汚れている】ということです。

限られた空間で飼育していると安心する場所というのは大体決まっています。その場所で排泄をするため尿の量が多いとどんどん地面は湿りついには水たまりならぬ尿だまりができてしまいました。

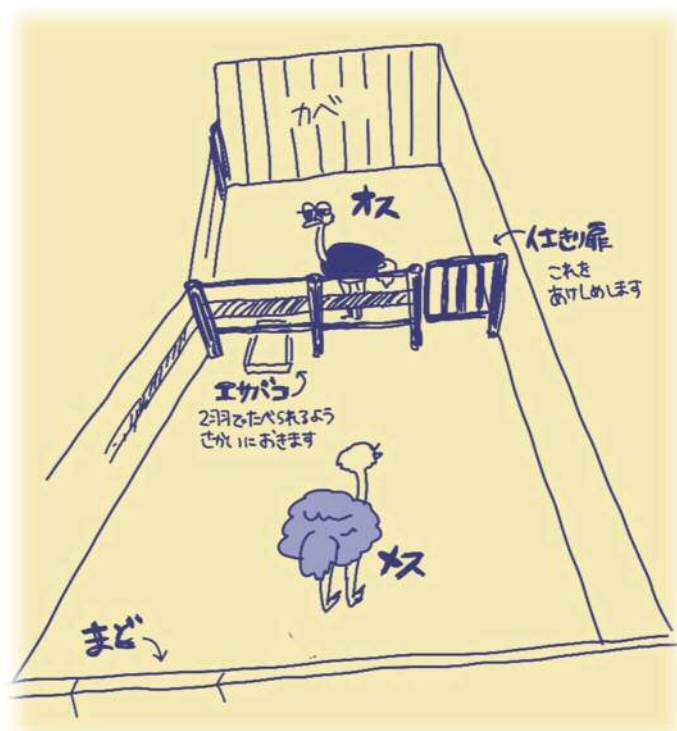
毎日床掃除をすれば解決では?と思いきやここで2つ目の問題が邪魔をします。

2つ目は【オスはちょっと怖がり??】です。



オスは見慣れないものや見慣れたものにさえびっくりして獣舎内を走りまわるのです。2つしか部屋がないためオスと同じ部屋に入って掃除をしなくてはならず、しっかり掃除したくてもできない状況でした。できるだけ短時間で毎日同じ作業ですおよう気を付けて作業をし尿だまりは乾草やチップで吸い込み片付けていましたが土が腐っていくのは解決できませんでした。

そこで思い切ってジュアと同居してみてもは？ということになりました。



ダチョウは本来群れで生活をする動物のため同居することはダチョウにとっても良いことのはずです。毎日柵越しでお見合いをしており関係は良好そうに見えます。

さらに関係を良くするため昼間の餌は共有の餌箱を使用することにしました。初日からケンカすることなく一緒に餌をつつく2羽を見て同居を決意しました。

2月15日いよいよ同居スタートです。

いつも通り柵越しに共有の餌をあげ2羽が食べているうちに仕切り扉を静かにスーッとあけました。

「！」

すぐに扉がないことに気づいたオス

その後すぐにジュアも気づいたのですがどちらも移動しようとしません。

オスは部屋の境をうろうろしだしジュアは扉とは真逆の窓に移動してしまいました。

いつもなら餌箱が空になるまで食べ続ける 2羽ですがこの行動から「扉が開いたことに気づいてはいるが扉の向こうにあまり行きたくない」というのがわかりました。

30分後、2羽はまだ自分の部屋にいるままです。

そこでジュアの部屋に餌箱を置いてオスに頑張ってもらおう作戦に切り替えです。



この作戦が功を奏しついにオスがジュアの部屋に入りました！

入ったと思ったら走りだしたオス！！  
つられてジュアも走りだしました。  
ダチョウは1羽が走ると他のダチョウも  
同じように走る習性をもっています。

このまま2羽が走ってぶつかり合いパニックになってしまうのでは?!とヒヤリとしましたがさすが先住ダチョウのジュア。すぐに落ち着きオスも止まりました。その後もオスが少し走ってしまうことはありましたがジュアが落ち着いているため数秒でとまり壁にぶつかってのケガや闘争もなく無事に同居ができました。

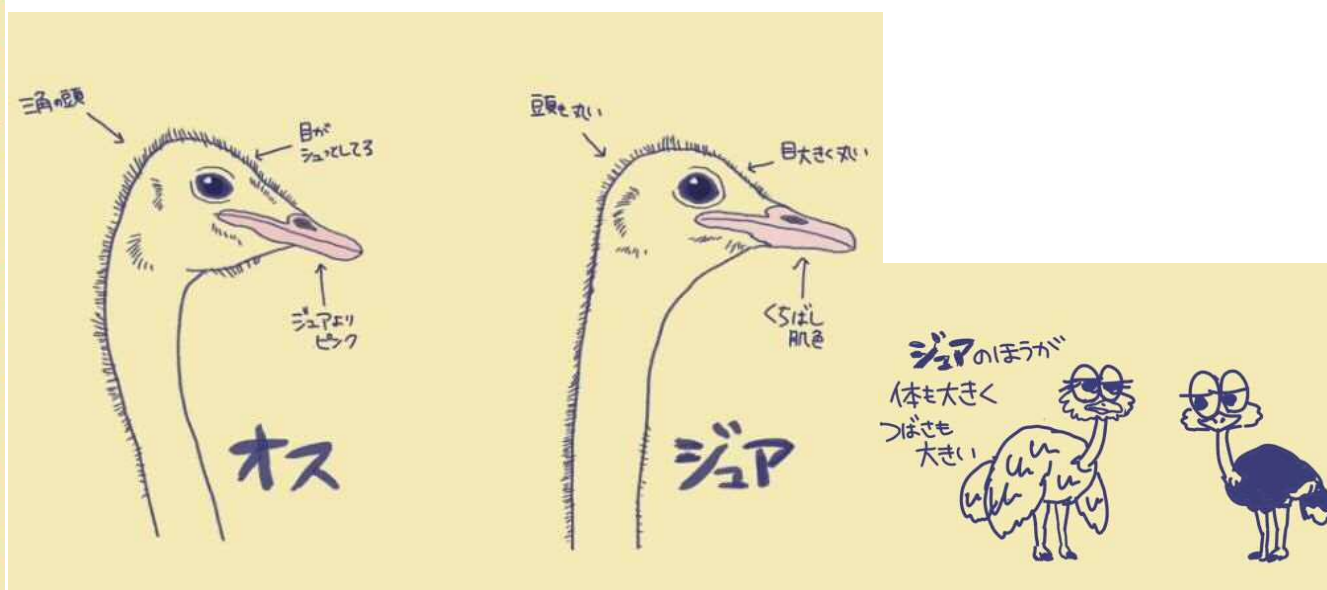


まだ不安なのかずっとジュアの後ろをついて歩くオス

1時間後の給餌では2羽並んで食べオスの部屋にも2羽で移動し落ち着いていました。  
ここまですればもう安心です。



2羽が並ぶことにより今まで以上に雌雄差（羽の違いなど）や個体差（体格や顔つきなど）がよくわかるようになりました。



### ③名前のはなし

ここまでの話の中でオスの名前が出てこないことにお気づきの方もいたのではないのでしょうか。実は円山動物園にやってきた時まだ名前がありませんでした。旭山動物園に聞いてみたところ、肢に赤い印をつけ「あか」と呼んでいたそうです。  
そこで赤にちなんだ名前を考えました。

命名【アーディー】 スワヒリ語で「大地」を意味します

野生のダチョウはアフリカの半乾燥地帯や森林に生息しており地面は鉄分などを多く含むためやや赤みをおびています。

ちなみに【ジュア】は同語で「太陽」を意味します。

2羽は品種改良された家畜のダチョウなので性格は温厚で飼育しやすくなっていますが野生のダチョウは気性が荒く飼いにくいそうです。

はるか昔ケニアで野生のダチョウを見たことがあるのですが広い草原を優雅と歩く姿はとても美しく動物園で見るダチョウとはひと味もふた味も違いました。



ケニアのツァボ国立公園のダチョウ（きっとマサイダチョウ）：円山動物園職員撮影

まずは動物園でじっくり動物の生態を知り観察したあと野生の動物を見に行くのがおススメです。ぜひ皆様もご自身の好きな動物の野生の姿を見に生息地へ足を運んでください。